

第1回ふたばグランドデザイン検討委員会議事録

《開催要領》

1 日 時 平成29年8月1日（火） 14:00～15:00

2 場 所 双葉地方会館 大会議室

3 出席者 全18名

4 出席者氏名

（1） 双葉地方町村会

双葉地方町村会会長	檜葉町町長	松 本	幸 英
検討委員会			
委員（委員長）	川内村副村長	猪 狩	貢
委員	広野町副町長	本 多	明
委員	檜葉町副町長	大和田	賢 司
委員	富岡町副町長	高 橋	浩 一
委員	大熊町副町長	石 田	仁
委員	浪江町副町長	宮 口	勝 美
委員	葛尾村副村長	馬 場	弘 至

（2） 事務局職員

双葉地方町村会			
常務理事兼事務局長		秋 元	正 國
事務局次長		加 藤	将 克
総務企画課長		山 口	貴 志
総務係長		木 幡	貴 宏

《議事次第》

- 1 検討委員会の開催目的について
- 2 双葉郡の現状について
- 3 全体スケジュールについて
- 4 意見交換

《配布資料》

- 1 第1回ふたばグランドデザイン検討委員会 次第
- 2 ふたばグランドデザイン検討委員会設置要綱
- 3 各町村計画期間一覧他

《会議の概要》

1 開 会

双葉町の委員欠席につき委員7名出席により定刻に開会した。

2 委嘱状の交付

松本幸英町村会会長より各委員への委嘱状の交付が行われた。

3 町村会会長挨拶

【松本町村会会長】

本日は委員の皆様におかれましては大変ご多用のところ、ご出席いただきありがとうございます。双葉地方町村会会長の檜葉町長松本幸英でございます。どうぞよろしくお願いいたします。検討委員会に先立ちまして、一言ご挨拶を申し上げます。

皆様ご存じのとおり、双葉郡は現在復興の途上にありますが、各町村の復興の時間軸が異なり、避難指示が解除され既に8割の住民が帰還したところもあれば、いまだに全域に避難指示が出ているところもあり、各町村がそれぞれ異なる困難に直面しております。

そのような中であるからこそ、「明るい未来の双葉郡」の姿を双葉郡が自ら思い描き、その方向に希望を持って進んでいけるよう、まさに目標となる「絵」が必要ではないかと、双葉郡8町村の町村長が意見交換をした際に話題となりました。

今回その意見を形にするため、委員会を立ち上げ、検討を進めることとしたところであります。

委員の皆様におかれては、各町村の置かれた現状をベースとして、夢と希望が持てる「明るい未来の双葉郡」となるように、知恵を結集し熟考と議論を重ね「ふたばグランドデザイン」を描いていただきたいと思います。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

4 設置要綱の確認

事務局より設置要綱（資料 2）の内容確認が行われた。

5 委員等の紹介

事務局より本日出席している検討委員及び事務局職員について紹介がなされた。

6 委員長の選出

ア 事務局より、委員会設置要綱に基づき、委員長の選出について意見を求めた。

イ 猪狩貢川内村副村長を推薦する意見が提出された。

ウ 事務局が確認を行ったが異議はなく、よって猪狩貢川内村副村長が委員長に選出された。

エ 猪狩貢検討委員会委員長挨拶

【猪狩委員長】

ただいま皆様方の互選によりまして「ふたばグランドデザイン検討委員会」の委員長の席に就かせていただきます、川内村副村長の猪狩貢でございます。よろしくお願いします。

過般の首長会議の中で、双葉郡8町村が「明るい未来の双葉郡」を思い描くべきという決定がなされ、本検討委員会が設置されました。

先ほど松本町村会長のご挨拶にもありましたように、双葉郡8町村はそれぞれの帰還・復興の時間軸が異なる困難に直面していることは確かでございます。

震災から6年4ヶ月が経ち、これまでに福島12市町村の将来像に関する有識者検討会や双葉郡等避難地域の医療等提供体制検討会を始め様々な会議が、国や県を中心に、又は双葉郡単独で開催され、議論を進め、復興の歩みを着実なものとするために関係機関一丸となって日夜課題解決に取り組んでいるところであります。

町村長の意向としましては、双葉郡8町村は自分の町・村の復興さえ出来れば・課題さえ解決出来ればハッピーエンドではなく、「双葉郡の全体が復興して初めて復興が成し遂げられたと言える」という共通認識の元、その考え方を表現するものとして「明るい未来の双葉郡」の姿に向かうための双葉郡としてのグランドデザインを検討し、広く示すことが必要であるという考え方を示唆されたと認識しております。

現在、各町村においてはそれぞれの計画を策定して、施策が実施さ

れているところでございます。まず、各町村の現状を把握して国や県の施策と重ね合わせ、そして、双葉郡が置かれた実情と現在の取り組み、及び将来の見通しを把握することが必要であると思います。

その上で、本委員会としては先に申し上げた双葉郡全体が復興した姿を思い描き、どのような方向に進むか、その姿が実現できるかという長期的な取り組みが必要な、まさにグランドデザインについて議論していきたいと思います。

皆様方におかれましては、各町村の復興は当然のことながら、双葉郡全体を視野に入れて、忌憚のない積極的なご意見を頂いてふたばグランドデザインを策定してまいりたいと思いますのでご協力よろしくをお願いします。

7 議事

(1) 検討委員会の開催目的について

ア 委員長の指示により、事務局から議事(1)について説明が行われた。

【事務局：加藤】

要綱にあるとおり、双葉郡各町村の現状や課題を把握した上で、今後「明るい未来の双葉郡」実現のために目指す基本的な目標を検討し、今後の双葉郡の進むべき方向性を指し示すような「ふたばグランドデザイン(案)」を作成し、双葉郡の各町村長を構成員とする町村長会議に示すことを目的としている。

検討委員会については、各町村副町村長8名の構成とする。また、必要に応じて国、県、有識者の方々から意見を聴取し、各町村に事実確認等を行うこととする。

イ 委員長は、議事(1)に対する質疑等を求めた。

質疑なし。

(2) 双葉郡の現状について

ア 委員長の指示により、事務局から議事(2)について説明が行われた。

【事務局：加藤】

事務局で双葉郡各町村の現在、策定され進行中の計画、構想及びビジョンの期間、場所をまとめた資料(資料 3)を作成した。

最長期間の計画は大熊町が策定した復興まちづくりビジョンで平成65年度までを対象としている。

各町村ごとに計画内の土地利用をまとめた地図のほかに、双葉郡8

町村保有の医療機関及び介護施設、イノベーション・コースト構想関係施設、教育機関の位置についても地図にまとめている。

- イ 委員長は、議事（２）に対する質疑等を求めた。
質疑なし。

（３） 全体スケジュールについて

- ア 委員長の指示により、事務局から議事（３）について説明が行われた。

【事務局：加藤】

要綱にあるとおり委員の任期は２年であるが、グランドデザイン（案）については、２年と言わずできるだけ早く行い「明るい未来の双葉郡」実現のための具体的な施策につなげて行くことが重要である。

早期の取りまとめのために、当面１～２ヶ月に１回程度の間隔で開催できるように日程調整を行いたいと考えている。

- イ 委員長は、議事（３）に対する質疑等を求めた。
質疑なし。

（４） 意見交換

【高橋委員（富岡町）】

全体スケジュールに関して、具体的な検討会のイメージについて、事務局が提示する何らかの案を元に議論していくのか。

【事務局：秋元】

事務局は、皆様のご意見を参考に必要に応じて既存の資料のとりまとめを行い、提供していくことに留めたいと考えている。

通常であれば、第１回で現状分析をし、第２回目で何らかのテーマを出し、第３回目に何らかの成果を出すという流れが考えられるが、今般のグランドデザインは、８町村の状況が違うために非常に捕らえ方が難しい状況にある。

「明るい未来の双葉郡」を描くということで考えると、一つひとつ共通認識を深めながら取り組むしかないと考えている。

まずは、それぞれ８町村個別の状況について双葉郡内で共通認識を持つことから確認していかなければならないと考えている。

当面は各町村の復興計画を元につき合わせをしながら、先ほどのような地図に落としこむやり方や、復興計画の基本理念、各町村の抱える課題あるいは先行町村といえる広野町や川内村の今までの取り組みの評価・分析といったことを資料や材料として整理したもので委員

会の検討をおこなっていただきたいと考えている。

【馬場委員（葛尾村）】

どのくらい先を見据えればいいのか、どのような検討をしていけばいいのか、アプローチの仕方について何かヒントがあれば教えていただきたい。

また、「明るい未来」を目指すために、地域ごとの強みを活かすような取り組みなど、明るい方向性に進められる何かがあれば教えていただきたい。

【事務局：秋元】

国が中心となって行っている福島１２市町村の将来像については３０～４０年後を見据えてとのことなので、それらを重ね合わせた上に今回のグランドデザインがあると考えている。

夢ある未来ということで、子どもたちに何が残せるのかという視点がヒントとなりえるかと思われる。

事務局としてグランドデザインの期間の案は無く、委員会での議論において、検討していきたいと考えている。

【宮口委員（浪江町）】

医療、高校等連携を検討すべき項目はあるものの、各自治体の現状踏まえて考えるとなると難しい。

理想論は描けるかもしれないが、スパンも決まっていなし、将来に向けての課題が多すぎて、全体的なものとして考えていこうとしたときにイメージがわからない。

グランドデザインを検討するうえでテーマごとに部門わけをするべきではないのか。

【猪狩委員長（川内村）】

各町村で個別に優れている部分はあると思うが、双葉郡全体として見たときに全体的に優れているかといわれると違うと思う。だからといって、広野町と川内村が同じで良いわけでもなく、それらの意味で双葉郡全体的な将来像を持つべきだと思っている。

双葉町や大熊町では、中間貯蔵施設が更地になってからがスタートだと言う考え方があり、川内村の私としては考え付かなかった視点であった。そのような各町村の違いについて、これから回を重ねることで認識していきたいと考えている。

議論に際して、下部の幹事会のような機関を設けるのか。

【事務局：秋元】

たたき台の作成にはワーキンググループは必要と考えているが、現在設置はしていない、皆様の議論によって検討いただきたい。

【猪狩委員長（川内村）】

下部組織の設置等については次回あたり検討することとする。

【大和田委員（檜葉町）】

時間が掛かっても1つずつ考えながら将来像の検討をしていくべき。

将来どのようになるのかということを示すために、各自治体が問題を照らし合わせながら考えていく必要があると考える。

【本多委員（広野町）】

分野ごとに検討していくのが良いと思う。

復興の現状が様々なため、双葉郡全体の姿となると描くのは難しいものの、明るい未来の双葉郡を描くためには、双葉町・大熊町の現状を考えれば30～40年後の姿を検討すべきと考える。

また、各町村の住民に現実味のあるグランドデザインとして受け止めてもらえるよう、10～20年後の間の期間も考慮して姿を描くことも大切ではないかと思う。

【石田委員（大熊町）】

大熊町で帰還できる土地は人口の4%分のみで、あれもこれもとはできないし、帰還困難区域のJRの開通を見据えてどうするか、他町村との連携を考えて確実な取り組みを考えるとというような議論程度しか現状ではできない。

広野町や川内村のように先行している町村から順に広域連携できる施設等を一旦整備し、30～40年後に再編するなど見直すことが現実的と考えている。

【事務局：秋元】

議論の争点をどうするのが難しく、8割の住民が帰還しているところもあれば、まだまだスタートはこれからというところもある。

そのような状況の中においては、地域公共交通や鳥獣被害対策などの大きな課題としての8町村の広域連携だけでなく、現実味のある2～3町村の広域連携などにも取り組む視点が必要なのではないかと考えている。

【馬場委員（葛尾村）】

「挑戦（チャレンジ）県ふくしま」のキーワードの受け売りではあるものの、「イノベーション」、「リノベーション」、「コミュニケーション」

ーション」という3つの視点も今後の検討の1つの方向性の材料になるのではないか。

【大和田委員（檜葉町）】

双葉郡の住民にも目を向けてもらうために、住民に対して過程を示し、住民と共に作り上げるようなシステムを用意して欲しい。

8 その他

ア 委員長は、その他意見等を求めた。

イ 事務局より次回の検討委員会の日程について検討の要請がなされた。

【事務局：秋元】

次回の検討委員会は9月の中旬に行うことで調整を進めるということをご理解いただきたい。

9 検討委員会の閉会

事務局は、検討委員会の閉会を宣した。

上記議事の結果を明確にするため、委員長が次に署名する。

平成29年 8月 9日

ふたばグランドデザイン検討委員会

委員長

猪 狩 貢

